

平成 29 年度 ウィメンズ エグゼクティブ・リーダーシップ プログラム
 (女性リーダー育成プログラム) 実施報告書

第 1 回：平成 29 年 9 月 8 日 (金) 16:10-18:10
 長崎大学文教キャンパス 文教スカイホール
 (講師) 広海健氏 (国立遺伝学研究所)

第 2 回：平成 29 年 9 月 9 日 (土) 9:00-13:10
 長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟 2 階
 21 番教室

(講師) 赤澤祐子講師 (医歯薬学総合研究科)
 池照佳代氏 ((有) アイズプラス)

参加者：2 日間で女性研究者延べ 41 名参加

【第 1 回】9 月 8 日 (金) 22 名参加 (女性教員に限らず、
 教職員、学生、大学院生も参加。全 87 名。)

広海健講師「研究者のための科学プレゼンテーションの
 極意」

国立遺伝学研究所の広海講師は、かつての自分は
 プレゼンテーションを行っても「質問が出ない」「聴
 衆 (相手) が退屈になる (寝る)」「就職に結びつか
 ない」状況に陥っていたが、当時はその原因が分か
 らなかったこと、今となっては、「聴衆への理解」
 が足りなかったからとわかること、「聴衆特性」の
 理解に基づくプレゼンテーションが重要であると
 の説明があった。

「聴衆特性」は 3 つに分類でき、「聴衆エネルギ
 ー」「聴衆マター」「聴衆コンサーン」と名づけられる。聴衆特性を理解したプレゼンテ
 ーションをすることができれば、フィードバックが得られやすくなり、それこそが研究プレ
 ゼンテーションが目指すべきところ (極意) である。

- 聴衆エネルギー：各聴衆がプレゼンを聞くために準備するエネルギーが使い果たされ
 ると、聴衆の理解力はゼロになる。したがって、省エネプレゼン<Conclusion Frist,
 Topic Sentence, Signpost, Front Loading>を心がけること。省エネ=節約された聴衆
 エネルギーがフィードバックに充てられる
- 聴衆マター：各聴衆にとってのプレゼンのトピックの重要性。これは可変である。良
 いプレゼンは、最初に Biggest Question を提示し、そのなかで Key Question を出す。
 聴衆を Key Question に引き込むための仕掛け (Perspective Frame) <一般的な大き



な疑問、対立仮説、奇妙な謎、コンセプト、有用性、自己（についての）紹介>をして、聴衆マターを作り出す=全員の心をつかむ。

- 聴衆コンサーン：プレゼンを聞くにあたって、聴衆が特に興味があること。聴衆が何を見ているか=聴衆にどうやって見せるか、である。論理的に話せる（論理性、知識）、結果⇒結論の出し方（分析力、見識）、こじつける力（〇〇能力）、騙す力（カリスマ性、リーダーシップ）、ユーモアや謙遜（刺激力、協調性）も必要。
- プレゼンの最後には、結論だけでなく、Perspective Frame を提示する。



【第2回】9月9日（土）女性教員19名参加（そのほか聴講5名）

赤澤祐子講師「あなたの wonder を世界へ―読まれる英語論文の作り方―」

本学医歯薬学総合研究科所属の赤澤講師は、医学系雑誌におけるリジェクト理由トップ4（理論的に筋が通っていない、結果につながる方法が1つしかない（証拠不十分）、新しさに欠ける（以前に研究されている）、投稿する雑誌の誤り）を示しながら、「SHUN（旬）を大事にする日本と同じく、論文にも「旬」がある。一般に論文完成が遅いほど、論文採択率は下がる」と参加者を鼓舞された。

- 「論文の作り方≠論文の書き方」
- 論文は書斎や机にこもって「書き上げる」だけのものではなく、「積み上げていく」もの
- 赤澤講師の作成順序：①Material & Methods ②Results（事実を書けばよく、情報収集は少なくて済む）③Introduction ④Discussion（Introduction とのだぶりを防ぐこと）⑤Abstract / Title
- 論文執筆の際は、ショートカットキーも多用して時短
- 各項目を書く際はブロックに分けて書く。
Abstract 執筆の際もこのブロックを頼りにする（書き損ないを防ぐこともできる）
- タイトル：「〇〇に効く」など、結果が分かるものにする
- 引用文献：最新の信頼されている文献を引用することが大事



- 英語のコツ：①short, long, short の原則 ②略語は最小限にする ③どんなに英語が得意でも校正に出す

池照佳代講師「女性リーダーのための『周囲を巻き込む』コミュニケーションスキル ～研究者に効く RQ 開発～」

参加者は事前に EQ 検査を受検したうえで、本講義を受講した。

池照講師の講義では最初に、「EQ」について知るためのビデオを視聴し、EQ への理解を深め、その後、各自が本日の講義で持ち帰りたいもの、もしくは仕事上のミッションや困っていることを考え、グループごとに共有した。



- 人材や組織を開発するためのツールとしての EQ を使っている。EQ が絶対ではないが、グローバルで活用されており理解されやすい、クライアント企業等への納得性が高い。
- グランドルール※できるだけ本音を語る※でも言いたくないことは言わなくてよい
- 女性は自己肯定感や組織の視点が低い傾向にある
- 「ミライノワタシ」を作成〜どのようなコミュニケーションを取る人になりたいか、各自が考えることから始めよう〜
- 自分の「ワクワク&ハッピー度」が高まる、「エネルギー」が高い時を知る⇒自分のパフォーマンスをアップさせるには、何をしたら良いかを把握しておく⇒自分の機嫌は自分でとる、そしてリーダーとして周囲の機嫌もとる
- コミュニケーションは発信も受信も自分から。聞く時間、待ちの時間をいかに作るかも大事
- 褒める、認める、励ます、元気付ける言葉を意識的に
- EQ はパソコンの OS にあたり、「自分の感情を把握、コントロールし、成果に向けて感情を活用する」、EQ は、自分で伸ばす（開発）することが可能



最後には、各自、EQ を伸ばすためにまずできることを、1 つ心がけてみる（アクション）を決め、具体的な行動への期待とともに、研修が終了した。

参加者アンケートでは、具体的なツールを教えてもらえたことで意欲がわいてきた、テンポよく内容が濃くてとても良かった、とても参考になった、とても面白く、目からウロコだった、参加するといつも元気が出て前向きになれる、大学運営に EQ を用いることを検討してもいいのではないかな等、前向きな意見や感想が数多くありました。

また、今後、女性がリーダーとして活躍するために学ぶべき内容、学びたい内容としては次のようなものが挙がりました。

- ・時間のマネジメント
- ・リーダーとして必要なスキルや資質について
- ・EQ プログラム講座 vol.2 ほか

今回のプログラムでは、平成 29 年 5 月から 7 月に開催された「長崎大学リレー講座 2017」、科研費セミナー等の研究推進戦略本部主催の各種セミナー（リレー講座および研究推進戦略本部主催のセミナーは、各 2 単位まで）、12 月 8 日の市民公開講座、1 月 12 日の長崎大学働き方見直しプログラム最終報告会、2 月 5 日の第 2 回長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞研究発表会、各スキル向上のための DVD 講座「ビジネスコーチング入門」「マネジメント能力開発のすべて」を、取得単位に含めることができます。

当プログラムは、平成 27 年度から開始され、平成 27 年度・28 年度の取得単位も含めて、6 単位以上を取られた方には、学長よりシルバー認定証が授与されます。この単位は来年度以降も累積され、12 単位以上ではゴールド認定証を、18 単位以上ではダイヤモンド認定証を授与します。